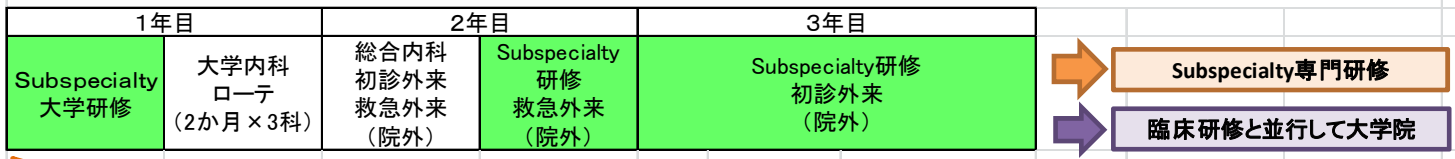


6) 具体的な研修例 [整備基準 : 32]

緑 : 内科とSubspecialty研修の連動研修(並行研修)

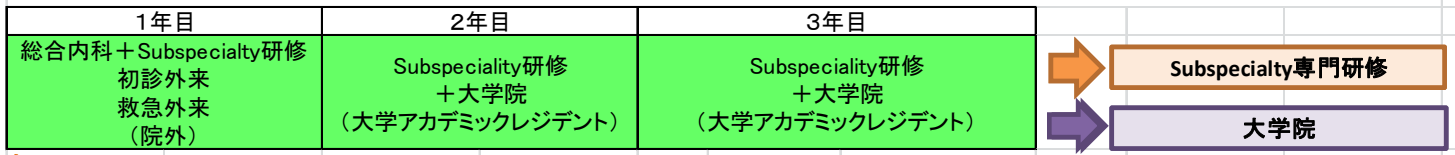
1) 後期専門研修に入ると同時にSubspecialty研修を選択する場合



<特色>

- Subspecialtyを内科研修開始と同時に選択し、横断的な内科研修を行いつつ、Subspecialty専門研修に繋がる症例を経験する。
- 内科とSubspecialtyとの「連動研修(並行研修)」によりSubspecialty専門医を早期に取得(最短で医師7年目)
- Subspecialty専門研修と並行して大学院への進学も可能

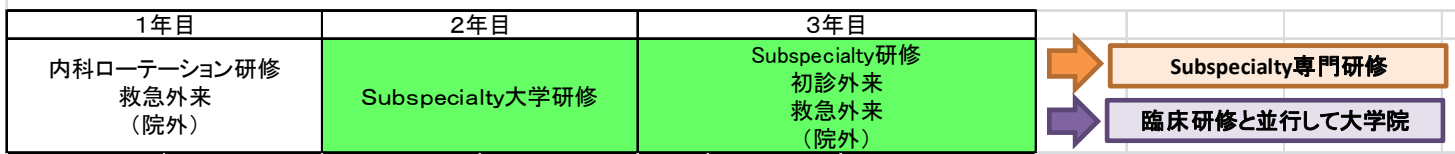
2) 後期専門研修に入ると同時にSubspecialty研修を行い、早期に学位取得や基礎研究も目指す



<特色>

- 専門研修1年目からSubspecialty専門指導医のもと研修を行う。Subspecialty研修と内科専門医に必要な疾患の経験をできるような内科横断的な研修を並行して行う
- Subspecialtyを内科研修開始と同時に選択し、早期に大学院進学をスムーズにする。
- 大学院とSubspecialty研修を並行して進めていくことで専門医取得と早期の学位取得を目指す。
- 専門医取得後教員や研究医へのキャリア形成がスムーズにできる。

3) 後期専門研修のうち1年間は内科全般を研修し、4年目・5年目はSubspecialtyの症例経験をしつつ内科横断的な研修を行う場合



<特色>

- 内科研修を開始してから1年後にSubspecialtyを選択する。
- Subspecialty選択は2年目修了時点でも可能。
- Subspecialty選択後はSubspecialty領域専門医に担任を変更し、研修を継続し、内科とSubspecialtyとの「連動研修(並行研修)」を取り入れられる。

4) 後期専門研修3年間は内科全般を研修し、その後Subspecialty研修。

1年目	2年目	3年目	
大学内科ローテーション (2か月×6科)	総合内科 初診外来研修 (院外)	内科ローテーション研修 初診外来研修 救急外来研修 (院外)	→ Subspecialty専門研修

Subspecialty選択

<特色>

- ・内科専門研修修了時点でSubspecialtyを選択する。
- ・総合内科、救急、内科ローテーション(1科2～3か月)を3年間継続して行い、内科全般の経験を積む。
- ・研修計画は専攻医の希望をもとに担任と作成する。

5) 出産育児をしながら研修を継続していく場合(Subspecialty選択の時期は個々と相談し決定する)

1年目	2年目	3年目	
内科 初診外来研修・救急外来研修 (院外)	Subspecialty 研修 救急外来 (院外)	出産・産休 ・育休※ Subspecialty研修 (大学女性医師支援プログラム)	→ Subspecialty専門研修 → 大学院

※研修休止期間(産休+育休期間)が6ヶ月を超えた場合研修期間を延長する

Subspecialty選択

<特色>

- ・Subspecialty選択は専攻医の希望に応じて1年目修了時、2年目修了時でも可能。
- ・Subspecialty選択後は内科とSubspecialtyとの「連動研修(並行研修)」が可能であり、Subspecialty専門医も最短期間で取得可能。
- ・希望により大学院への進学も可能。
- ・産休・育休に関わる休止期間は専攻医の希望に応じて決定し、担任が個別に研修内容を調整する。
- ・研修休止期間が6ヶ月以上であり3年間で内科専門研修が修了出来ない場合、研修期間を延長する。その場合、不足期間分のみの延長で対応する

6) 地域枠・修学生の場合

1年目	2年目	3年目	
大学内科ローテーション (2か月×6科)	Subspecialty研修 初診外来 (院外・県指定エリア)	内科 初診外来研修・救急外来研修 (院外) (県指定エリアの中小病院)	→ Subspecialty専門研修

Subspecialty選択

<特色>

- ・Subspecialty選択は専攻医の希望に応じて研修開始時、1年目修了時、2年目修了時、3年目修了時でも可能。
- ・Subspecialty選択後は内科とSubspecialtyとの「連動研修(並行研修)」が可能。
- ・院外研修先を県の指定エリアでの研修を基本とし、基本的に3年目の1年間は中小病院での内科地域医療研修を行う。
- ・専攻医の希望を尊重し、Subspecialty専門研修や大学院への進学など地域枠・修学生の長期キャリアを支援する。